

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互関係調べる一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学号・職安番号	学校教育専攻実践課程
コース名	初級教育コース・技術教育選修

教育学部の教育目的(具体的に記述・箇条書き)	学校教育教員養成課程の教育目的(具体的に記述・箇条書き)	教科教育コース・技術教育選修の教育目的	
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の職業をもつ責務を有する人材の養成を目的とする。	子どもを教し教育および職業に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。	技術分野の講義・演習を通じて、ものをつくる楽しさややりがいを知り、生きて働く社会や働く者について学び、三次産業進出する能力など高い人間性としての質的および成長を目指す。同時に、これらを学校現場で指導できる人材を養成する。	
学校教育教員養成課程教科教育コース・技術教育選修のカリキュラム	学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)	教科教育コース・技術教育選修のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)	
授業科目名	授業科目の到達目標 (箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標 (箇条書き) S1: 教育理念理解力・教育観 S2: 教育方法・技術力・指導力 S3: 生活指導力 S4: 教育実践力 S5: 教育研究力 S6: 教育実践力 S7: 教育実践力 S8: 教育実践力 S9: 教育実践力 S10: 教育実践力 S11: 教育実践力 S12: 教育実践力 S13: 教育実践力 S14: 教育実践力 S15: 教育実践力 S16: 教育実践力 S17: 教育実践力 S18: 教育実践力 S19: 教育実践力 S20: 教育実践力 S21: 教育実践力 S22: 教育実践力 S23: 教育実践力 S24: 教育実践力 S25: 教育実践力 S26: 教育実践力 S27: 教育実践力 S28: 教育実践力 S29: 教育実践力 S30: 教育実践力 S31: 教育実践力 S32: 教育実践力 S33: 教育実践力 S34: 教育実践力 S35: 教育実践力 S36: 教育実践力 S37: 教育実践力 S38: 教育実践力 S39: 教育実践力 S40: 教育実践力 S41: 教育実践力 S42: 教育実践力 S43: 教育実践力 S44: 教育実践力 S45: 教育実践力 S46: 教育実践力 S47: 教育実践力 S48: 教育実践力 S49: 教育実践力 S50: 教育実践力 S51: 教育実践力 S52: 教育実践力 S53: 教育実践力 S54: 教育実践力 S55: 教育実践力 S56: 教育実践力 S57: 教育実践力 S58: 教育実践力 S59: 教育実践力 S60: 教育実践力 S61: 教育実践力 S62: 教育実践力 S63: 教育実践力 S64: 教育実践力 S65: 教育実践力 S66: 教育実践力 S67: 教育実践力 S68: 教育実践力 S69: 教育実践力 S70: 教育実践力 S71: 教育実践力 S72: 教育実践力 S73: 教育実践力 S74: 教育実践力 S75: 教育実践力 S76: 教育実践力 S77: 教育実践力 S78: 教育実践力 S79: 教育実践力 S80: 教育実践力 S81: 教育実践力 S82: 教育実践力 S83: 教育実践力 S84: 教育実践力 S85: 教育実践力 S86: 教育実践力 S87: 教育実践力 S88: 教育実践力 S89: 教育実践力 S90: 教育実践力 S91: 教育実践力 S92: 教育実践力 S93: 教育実践力 S94: 教育実践力 S95: 教育実践力 S96: 教育実践力 S97: 教育実践力 S98: 教育実践力 S99: 教育実践力 S100: 教育実践力	
総合演習	人間に共通する課題や日本社会に特有な課題について学ぶ。	1. 人間や日本社会の課題を認識し、説明することができる。 2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を述べることができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に伝わりやすい形で伝えることができる。	1. △ 2. △ 3. △
倫理に関する科目(小中)			
教職論	1. 教職の意義や魅力、求められる資質、能力などについて理解する。 2. 教職への職業志向、使命感などを育む。	1. 教職の意義や基礎知識について理解し、説明することができる。 2. 教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。 3. 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。	1. △ 2. △ 3. △
教育論	1. 教育を問いかけたる歴史的・社会的背景とそれを支える思想の歴史的展開	1. 教育の理念、目標、思想、歴史について説明することができる。 2. 歴史を踏まえ、現代教育の意義を述べることができる。 3. 教育について系統的に考えようことができる。	1. △ 2. △ 3. △
教育哲学	1. 教育哲学の学問的性格 2. シュプランガーの生涯と教育哲学 3. シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育	1. 教育哲学の学問的性格が理解できる。 2. シュプランガーの生涯と教育哲学が理解できる。 3. シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育が理解できる。	1. △ 2. △ 3. △
教育史	1. 日本の教育の理念・思想の歴史的展開 2. 日本の教育の歴史的性格	1. 日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明することができる。 2. 日本の教育の歴史的性格について説明することができる。	1. △ 2. △ 3. △
発達心理学	1. 人間の発達の原因・要因について理解する。 2. 発達段階とその発達課題について理解する。 3. 学校・家庭・地域など身近な場面での発達発達として捉える。	1. 自己の理解の土台として、発達心理学の知識を確立し、説明できる。 2. 知識やデータを主体的に受け入れ、自ら考え、結論を導くことができる。 3. 自己の理解に基いた理論について、データに基づいた説明ができる。 4. 心理学的研究の方法や分析など基本的な手法について理解できる。 5. 心理学を科学として位置づけることができる。	1. △ 2. △ 3. △ 4. △ 5. △
教育心理学	1. 学校における教育活動において子どもを教えるための実践的知識を確立する。 2. 児童・生徒の発達と学習の原理、機能的理論、さらに学習心理学の視点から、教育実践についてデータに基づいて説明する。 3. いろいろな指導法や心理療法について理解する。	1. 子どもへの積極的な指導のあり方について理解できる。 2. 児童・生徒の発達と学習の原理、機能的理論、さらに学習心理学の視点から、教育実践についてデータに基づいた説明ができる。 3. いろいろな指導法や心理療法について理解できる。	1. △ 2. △ 3. △
教育社会学	本講義では、準備集団における子どもの社会的発達(=社会化)について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	1. 社会化概念について説明できる。 2. 子どもの発達に対する準備集団の役割について説明できる。 3. 講義で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 4. 現代社会における子ども・教育問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分の考えを述べることができる。	1. △ 2. △ 3. △ 4. △
教育制度	1. 学校教育に法廷的な「制度」「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに理解を深めていく。 2. 基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。	1. 学校教育を中心とする教育制度の意義が理解できている。 2. 教育制度の特徴や課題について自ら調べ、意見を述べることができる。	1. △ 2. △
教育法規	1. 教育法規を調べる方法を授業中に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	1. 現行教育法規の要点が理解できている。 2. 主要な教育法規について、法施行の文書、その趣旨などを理解できている。	1. △ 2. △
社会教育	1. 生涯学習の観点から社会教育の方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	1. 生涯学習の概念、キーワードなどの基本的事項について理解できる。 2. 社会教育の各分野の概要と課題について説明できる。	1. △ 2. △
国際理解教育概論	1. 国際理解教育の重要性、基本概念、範囲について理解する。 2. 各専門教科での国際理解教育の取入れ方や実践方法について捉える。 3. 現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	1. 国際理解教育の重要性や概念と歴史的展開について理解し、説明することができる。 2. 国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 3. 日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	2. △ 3. △
教育方法学	1. 授業の基本原則 2. 主体的学習の成立と指導 3. 教育課程の編成	1. 授業が持つ4つの基本的性格について理解し、説明できる。 2. 児童・生徒の主体的な学びを呼び起こす指導の技法について説明できる。 3. 教育課程の編成原理と方法について説明できる。	1. △ 2. △ 3. △
教育メディア論(教育実践・情報機器及び教材を含む)	1. 教育・学習過程(授業)において「わかる」「楽しい」授業をめざしたさまざまな教育実践と教育メディアの活用による学習効果について理解する。さらに、インターネットなどによる多様化した学習の形態や教材について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計・実践・評価について理解する。	1. メディアを有効に活用した授業の理解と実践ができる。 2. 理論的、批判的思考力と判断力について学び実践できる。 3. メディアを活用した教材の開発ができる。 4. 教材の開発・実践について説明できる。 5. メディアを活用したプレゼンテーション実践を通して、その計画・実践・評価ができる。	1. △ 2. △ 3. △ 4. △ 5. △
道徳教育	1. 道徳の語源と意味 2. 西欧の道徳観の発展 3. 道徳教育の目的・内容・方法	1. 道徳の語源と意味について理解できる。 2. 西欧における道徳観の発展について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3. 道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。	1. △ 2. △ 3. △
特別活動	1. 特別活動の目標と内容 2. 学級指導の基本原則と方法 3. 特別活動の指導計画	1. 特別活動の目標と内容について理解し、説明できる。 2. 学級指導の指導原則とその方法について説明できる。 3. 特別活動の指導計画作成の基本的観点・構成要素について理解し、指導できる。	2. △ 3. △
生徒指導概論	1. 生徒指導の意義と目的 2. 生徒指導の内容と方法 3. 生徒指導計画	1. 生徒指導の意義と目的について理解し、説明できる。 2. 生徒指導の内容と方法について理解し、説明できる。 3. 生徒指導計画の基本的観点と構成要素について理解し、説明できる。	1. △ 2. △ 3. △
教育相談-道徳指導	1. 生徒指導と教育相談の違いについて説明する。 2. 学校における不登校、いじめ、不登校などの問題に対する基本的姿勢について理解する。 3. 臨床心理学のさまざまな技法について理解する。	1. 生徒指導と教育相談の違いについて理解する。 2. 不登校、いじめ、非行などさまざまな問題の原因を理解し、それらに対する基本的姿勢を身につける。 3. 臨床心理学のさまざまな技法について理解する。	1. △ 2. △ 3. △

<p><b>事例・指導事例</b></p> <p>1. 教育実習前と後に行う指導を通して、教育実習での教育実践の振り返りや成長をより確かめようとする。</p> <p>2. 教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける。</p> <p>3. 教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う。</p> <p>4. 教育実習で得られた経験から教育実践における指導の整理し、教育実習の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する。</p>	<p>教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習における心構えを身につけ、実行できること。</p> <p>2. 授業記録を作成することができること。</p> <p>3. 授業参加観を通して、教育観、授業観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識できること。</p> <p>4. 教育実習を通して得られた経験から教育実習における指導の整理し、教育実習の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること。</p> <p>5. 教育実習を通して、学習指導、生活指導、生徒指導の観点から自分の実習について振り返ることができること。</p>	3. 〇 7. 〇	4. 〇 8. 〇	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇 6. 〇 7. 〇 8. 〇						
<b>小領域に関する科目(小)</b>										
<p><b>教科教育国語</b></p> <p>小学校の国語教科書における文章の理解や表現のあり方について考察する。過去の優れた実践例や現在の指導例を紹介しつつ、今日の文章教育が担うべき課題や問題点を検討してゆく。</p>	<p>1. 文学教育の意義および今日の課題について、授業を設計できること。</p> <p>2. 文学教育の問題点や今日の課題について、自分の考えをまとめることができること。</p> <p>3. 文学教育への関心を深め、実際の学習指導の改善に意欲的に取り組むことができること。</p> <p>4. 多角的な視点から問題点を捉え、考察を加えることができること。</p> <p>5. 自分の考察を口頭や文章で適切に表現できること。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇								
<p><b>教科教育社会</b></p> <p>1. 小学校社会科の教材研究と教材構成</p> <p>2. 小学校社会科の授業構成</p>	<p>1. 小学校社会科に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する小学校社会科の学習を構想できること。</p>	1. 〇 2. 〇								
<p><b>教科教育算数</b></p> <p>1. 小学校算数に関わる基本的な指導内について解説する。</p> <p>2. 小学校算数の指導方法に関して解説する。</p>	<p>1. 小学校算数に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する小学校算数の学習を構想できること。</p>	1. 〇 2. 〇								
<p><b>教科教育理科</b></p> <p>1. 小学校理科に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する小学校理科の学習を構想できること。</p>	<p>1. 小学校理科に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する小学校理科の学習を構想できること。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇								
<p><b>教科教育生活</b></p> <p>生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の生活科の歴史や今日的な課題とを関連させながら講義する。なお、学校現場での実践による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。</p>	<p>1. 生活科の理念、目標、内容、方法について説明できること。</p> <p>2. 生活科の指導内容と関連させながら、生活科の歴史や今日的な課題について説明できること。</p> <p>3. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができること。</p> <p>4. 生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができること。</p> <p>5. 日常生活の中で自然や社会と自分との関わりについて主体的に考えることができること。</p> <p>6. 日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができること。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇 6. 〇								
<p><b>教科教育音楽</b></p> <p>1. 小学校の音楽科の授業に必要な音楽の役割、音楽的要素、音楽科の目標・評価などの知識や学習理論について教授する。</p> <p>2. 実践に向けて、学習計画、学習指導案について教授し、実際に教材研究を行った学習指導案を作成し、その実践報告を通して授業実践を行う。</p>	<p>1. 小学校音楽科に関する知識や学習理論を整理し、それを音楽科の授業研究に活用することができること。</p> <p>2. 学習指導案の作成、実践授業の実施、評価の観点から音楽科の授業について研究することができること。</p>	1. 〇 2. 〇								
<p><b>教科教育美術</b></p> <p>1. 美術科教育の基礎、即ち教育、初等教育・中等教育を通しての美術教育における美術教育の基礎的知識の整理、(美術科教育学Ⅰ～Ⅲ)の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義、理念・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。</p>	<p>1. 普通教育における美術教育の基礎的知識を整理し、それを美術科の授業研究に活用することができること。</p> <p>2. 美術科の授業研究に活用することができること。</p>	1. 〇								
<p><b>教科教育体育</b></p> <p>1. 小学校における体育科の教育内容、方法について学習する。</p> <p>2. 授業は体育領域(海苔)と保健領域(芝生)に分けて実施する。そのためにグループ構成で、6～7回で指導案を作成する。</p>	<p>1. 小学校体育科の体育領域および保健領域についてその教育目標、内容を理解し、教育方法等に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p>	〇								
<p><b>教科教育家庭</b></p> <p>1. 小学校学習指導要領「家庭科」に関する知識や学習理論を整理し、それを家庭科の授業研究に活用することができること。</p> <p>2. 家庭科の授業研究に活用することができること。</p>	<p>1. 小学校学習指導要領の意図を理解し、それを家庭科の授業研究に活用することができること。</p> <p>2. 家庭科の授業研究に活用することができること。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇 6. 〇 7. 〇 8. 〇								
<p><b>教育実習(初等)</b></p> <p>幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本および応用実習</p>	<p>1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体験する。</p> <p>2. 児童に対する理解を深める。</p> <p>3. 教育指導技術を修得する。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇	1. 〇							
<p><b>教育実習(初等)</b></p> <p>幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本または応用実習</p>	<p>1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体験する。</p> <p>2. 児童に対する理解を深める。</p> <p>3. 教育指導技術を修得する。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇	1. 〇							
<b>領域に関する科目(中)</b>										
<p><b>技術科教育法</b></p> <p>1. 技術科教育に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する技術科の学習を構想できること。</p>	<p>1. 技術科教育に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する技術科の学習を構想できること。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇								
<p><b>技術科教育法</b></p> <p>1. 技術科教育に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する技術科の学習を構想できること。</p>	<p>1. 技術科教育に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する技術科の学習を構想できること。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇								
<p><b>技術科教育法</b></p> <p>1. 技術科教育に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する技術科の学習を構想できること。</p>	<p>1. 技術科教育に関する基礎的知識を整理し、説明できること。</p> <p>2. 一定の題材に関する技術科の学習を構想できること。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇								
<p><b>教育実習(中)</b></p> <p>中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本および応用実習</p>	<p>1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体験する。</p> <p>2. 生徒に対する理解を深める。</p> <p>3. 教育指導技術を修得する。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇	1. 〇							
<p><b>教育実習(高)</b></p> <p>中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本または応用実習</p>	<p>1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体験する。</p> <p>2. 生徒に対する理解を深める。</p> <p>3. 教育指導技術を修得する。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇	1. 〇							
<b>教育または教職に関する科目</b>										
<p><b>大規模研修実習</b></p> <p>1. 研修期間中に研修施設において、合わせて7日間、介護職の研修を行う。</p>	<p>個人の成長及び社会進歩の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させること。</p>	〇								
<p><b>国際理解教育</b></p> <p>1. 国際理解教育の理念と歴史を理解する。</p> <p>2. 国際理解教育の取組について知識を深め、理解する。</p> <p>3. 国際理解教育を学校教育で行う際の計画を立てる。</p>	<p>1. 国際理解教育の理念と歴史を理解する。</p> <p>2. 国際理解教育の取組について知識を深め、理解する。</p> <p>3. 国際理解教育を学校教育で行う際の計画を立てる。</p>	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇 6. 〇 7. 〇	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇 6. 〇 7. 〇							
<b>領域に関する科目(小学校専門科目)</b>										

初等科国語	本授業では、言語と人間の関係及び国語の意義について、考えを深め、国語の面白さや有用性を基盤として、国語の面白さや有用性について具体的な説明を試みる。	1. 言語の面白さについて説明できる。 2. 国語の面白さや有用性について説明できる。 3. 国語を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 4. 言語の役割や働きに高い関心を持つ。 5. 積極的に教材開発分析に取り組むことができる。 6. 小学校国語の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 7. 考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8. 国語教材の授業改善はどのようなものかについて理解する。 9. 改善の視点を考えることができる。 10. 授業改善について関心を示すことができる。 11. まじめに取り組むことができる。	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇 6. 〇 7. 〇 8. 〇 9. 〇 10. 〇					
初等科社会	小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学・地理学・政治学・経済学・社会学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深め、教材開発への方向性を示唆する。	1. 小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学・地理学・政治学・社会学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深め、教材開発への方向性を示唆する。	1. 〇 2. 〇					
初等科数学	1. 算数教育の範囲で扱えるさまざまな数学的問題に自ら取り組む。 2. 算数の見方・考え方、数学の面白さ、算数の価値観について理解する。	1. 算数教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2. 算数の見方・考え方、数学の面白さ、算数の価値観について具体的に理解することができる。	1. 〇 2. 〇					
初等科理科	1. 科学的な調査や実験について、理科教育の意義、教材研究等について理解する。 2. 自然現象に興味関心をもつ。 3. 小学校理科の教材研究ができる。	1. 科学的な調査や実験について理解する。 2. 自然現象に興味関心をもつ。 3. 小学校理科の教材研究ができる。	1. 〇 2. 〇 3. 〇	3.0				
初等科生活	1. 生活科授業に必要な知識、技能を習得する。 2. 体験型授業の基本を理解し、構想して行う上で必要な栽培、飼育、観察等の知識、技能の修得を目指す。	1. 生活科授業に必要な知識、技能を習得する。 2. 体験型授業の基本を理解し、構想して行う上で必要な栽培、飼育、観察等の知識、技能の修得を目指す。	1. 〇 2. 〇					
初等科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	1. 音楽に関する知識や技能が身に付いている。 2. 音楽活動に参加し、創造的に音楽を表現することができる。 3. 積極的に音楽的表現の習得に取り組む、音楽表現に生き生きとすることができる。	1. 〇 2. 〇 3. 〇					
小学校音楽科実践	ピアノ演奏の基礎と、その発展した形態として、簡易伴奏法及び弾き語りを学習する。	1. 音楽の基礎と、その発展した形態として、簡易伴奏法及び弾きごりを学習する。 2. 小学校の歌唱教材の弾きごりができる。	1. 〇 2. 〇					
初等科図画工作	小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な基礎的な技術、知識を習得する。平面図画、立体図画、鑑賞の3つの分野を学習する。	1. 小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な基礎的な技術、知識を習得する。 2. 平面図画、立体図画、鑑賞の3つの分野を学習する。	1. 〇 2. 〇					
初等科体育	1. 小学校体育における各種の運動の教材の作り、実技を選手として行うことができる。 2. 講義に基盤に取り組み、実技・器械運動とタフソフトボールの学習および指導	1. 小学校体育における各種の運動の教材の作り、実技を選手として行うことができる。 2. 講義に基盤に取り組み、実技・器械運動とタフソフトボールの学習および指導	1. 〇 2. 〇 3. 〇					
初等科家庭	小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を学習する。食物・繊維・住居・家庭の4領域について学ぶ。	1. 家庭科教育の各領域における基礎的な知識を習得する。 2. 各領域の専門的知識を教育に活用することについての判断ができる。 3. 専門的知識の理解に基づいて、家庭科教育に対する安心・意欲を高める。	1. 〇 2. 〇 3. 〇					
理科に関する科目(中学教科専門)								
理科	1. 「ものづくり」を行う際に必要となる製図について、その基礎的な知識と作図法を習得する。 2. 製図とこれに続く読図の基本的な構成とし、読図計画に沿って出題する課題を通して実践的な力を身に付ける。	1. 製図の意義を知る。 2. 基本的な製図法について理解する。 3. 製図を正しく読み取ることができる。 4. 進んで製図を描こうとする。 5. 様々な製図に関心を持つようになる。 6. きれいな製図を描くよう心がけている。 7. 正しい製図を描くようになっている。 8. 製図用具が正しく扱える。 9. 製図用具が効率的に利用できる。 10. 読みやすい、きれいな製図を描くことができる。	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇 6. 〇			1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0
木材加工法(実習を含む)	1. 木材およびその加工に関する基礎的な知識を習得する。実習を行い実践的にこれを理解する。 2. 実習では、中級技術者・家庭科での指導を想定し、手加工を中心とした基本的な加工法を身に付ける。	1. 木材および木質材料の特徴と加工法に関する基礎知識・理解。 2. 目的等を勘案し、適切な材料や加工方法を選択できる。 3. 全体および構造物の段取りが行える。 4. 進んで木について知ろうとする。 5. 進んで、加工方法等について知ろうとする。 6. 加工方法や工程を検討し、工夫しようとする。 7. 工具等の手入れを行うことができる。 8. 実習室の整理・整頓ならびに美化を図ろうとする。 9. 工具や機械が安全かつ正しく扱える。 10. 製作品が寸法どりに製作できている。	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇			1.0 2.0 3.0 4.0 5.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0
木材加工	1. 木材加工法で学習した内容をさらに詳しく説明し、木材やその加工法に関する知識や技術を深める。 2. 授業は講義が中心となるが、必要に応じて演習を含める場合がある。	1. 木材および木質材料について説明できる。 2. 木材加工に使用する工具や機械について説明できる。 3. 作業の安全や管理について説明できる。 4. 木材や木質材料について進んで知ろうとする。 5. 木材の加工について、進んで知ろうとする。 6. 身の回りの木々や自然環境について関心を持っている。 7. 木材と人との関わりについて、正しく理解しようとしている。	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇			1.0 2.0 3.0 4.0	1.0 2.0 3.0 4.0	1.0 2.0 3.0 4.0
木材加工実習	木工具および木工機械の整備をとおして、その加工原理や仕組み、安全対策を学びます。	1. 木工具の整備ができる。 2. 木工機械の仕組み・整備ができる。 3. 木材加工における安全対策ができる。	1. 〇 2. 〇 3. 〇			1.0 2.0 3.0	1.0 2.0 3.0	1.0 2.0 3.0
総合技術	1. われわれの身の回りにある製品は、その多くが複数の材料を組み合わせて作られている。製品に求められる機能やデザインが複雑化、高度化しつつある中、材料が持つ様々な性質や特徴を、適切に組み合わせることは、技術者ならびにもの作り教育に関わる者にとって、必須の知識であり能力といわざるをえない。主な学習内容は、各種材料の物理的、化学的、機械的性質の把握、製品の考案・設計と素材の選定、加工方法ならびに加工性の検討、各種材料を組み合わせたことによる長所と短所の検討、安全指導および管理等が挙げられる。	1. 加工に必要な、素材に対する知識・理解を有している。 2. 適切な材料や加工方法を選択できる。 3. 構想立案が行える。 4. 簡易的な加工について知ろうとしている。 5. 問題解決に取り組んでいる。 6. 加工に必要な技能を有している。作品の完成度。	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇			1.0 2.0 3.0 4.0 5.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0
金属材料学	1. 私たちの生活に活用されている金属材料について、その結晶構造、製造方法、物理的性質、化学的性質、機械的性質、熱処理法、特徴、使用方法について解説する。 2. 主に、鉄系材料について解説する。	1. 金属材料の種類を説明できる。 2. 金属材料の特性と応用方法を関係づけて説明できる。 3. 金属材料の種類の違いを説明できる。 4. 金属材料の性質の違いを説明できる。 5. 金属材料の性質を評価できる。 6. 金属材料の関心の向く点に発言できる。 7. 金属材料の性質評価に参加できる。 8. 金属材料の性能分析に説明できる。 9. 金属材料の性質を評価する知識が得られる。 10. 金属材料の材料設計法が理解できる。	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇			1.0 2.0 3.0 4.0 5.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0
金属工作法(機械加工実習を含む)	1. 技術教育の金属加工領域で習得すべき金属加工用工具、工作機械の機能、使用方法について理解する。 2. 習得を深めるために演習・実習も併用して行う。	1. 金属加工用工具及び代表的な工作機械を説明できる。 2. 金属加工用工具及び代表的な工作機械の機能について理解できる。 3. 金属加工用工具及び代表的な工作機械を説明できる。 4. 機械加工法を説明できる。 5. 機械加工法を説明できる。 6. ものづくり教育の推進に寄与できる。 7. 金属加工によるものづくりに参加できる。 8. 金属加工に慣れ、協働できる。 9. 金属加工技術を修得できる。 10. 金属加工により作品を自由に製作できる。	1. 〇 2. 〇 3. 〇 4. 〇 5. 〇			1.0 2.0 3.0 4.0 5.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0	1.0 2.0 3.0 4.0 5.0



<p><b>専攻研究</b></p>	<p>卒業論文の作成に向けて、各自の決定したテーマに応じて、調査の方法、論文の書き方および発表方法等について指導を行う。</p>	<p>1. 研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 2. 研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べる事ができる。 3. 様々な問題について、主体的に考えることができる。 4. 研究成果を論文としてとりまとめ、発表を行う。</p>				<p>10 20 30 40</p>	<p>10 20 30 40</p>	<p>10 20 30 40</p>
<p>GP項目別到達度判定方法（具体的に記述・調査書等）</p>								
<p>総合的GP到達度判定方法（具体的に記述・調査書等）</p>								